

福島のおゆき国会日誌

<臨時国会召集の要求書を提出>

18日、有志の会の国会担当として会派全員の名前を添えて、立憲民主党・無所属、国民民主党・無所属クラブ、日本共産党、れいわ新選組の野党各会派と一緒に、細田博之衆議院議長に憲法第53条に基づく国会開会要求を提出いたしました。

世間では旧統一教会の問題に注目が集まっていますが、国会を直ちに開かなければならない問題はスキャンダル追及以上に、まずはコロナ対策です。すでに感染症法に基づくコロナ対策は形骸化しており、実態に見合った法改正は喫緊の課題です。立法府である国会を開かなければ、これはできません。また、あまり大きく問題視されていませんが、中国による我が国の排他的経済水域へのミサイル発射は、これまでの北朝鮮によるものとは全く違う意味を持ちます。東アジアの第二次大戦後の国際秩序が根本から変わろうとしているのです。

岸田政権は10日内閣改造を行い、こうしたことの要となる厚生労働大臣や防衛大臣が交代しました。まずこれらの大臣の所信を聴取し、これらの問題への対応方針を議論しなければなりません。その他円安・物価高の問題など問題山積であり、国会議員が夏休みを取っている場合ではないのです。

<ゴルフコンペ開催・街宣活動>



19日、開城地区後援会の「福島のおゆき杯ゴルフコンペ」から活動をスタートしました。朝の風は、さわやかな秋の風でした。その後は、同級生と水戸市内を街宣しました。今回も多くの人に出てきていただきました。やっぱり地元には癒されます。

<旧統一教会との関係>

地域を回っていると、「福島さんは旧統一教会と何らかの関係はありますか?」と聞かれることが多いので、これまでの案内等を調べました。

2期目の2015年に写真のようなご案内をいただきましたが、案内文を見て旧統一教会と関係ある団体であることは明確なので、出席しませんでした。団体の性格にかんがみメッセージも送っておりません。

政治に携わる者であれば、ご案内をいただいたときに条件反射的に出席したり、メッセージを出したりすることはあらず、ある程度背景などを調べるのは当然です。

浪人中にも、支援者や元労働組合関係者などから「応援するから」とお誘いをいただきましたが、やはりお断りをいたしました。

旧統一教会とその関連団体と関わりがあった政治家のさまざまな言い訳が報道されておりますが、結局はそうした姿勢を見て国民の皆さんが選挙で判断するしかないのです。

<茨城県護国神社の終戦記念祭に参列しました>



毎年8月15日の敗戦の日は、とりわけ政治家になってからは心が重くなる日です。当時の記録を読むと、日本の軍部や指導層が一番の危機にあつていかに無能で、日本的な組織がダメかということを感じ知らされます。しかも、その有様は行政にいたり政治の場にいる現代の私にも、思い当たるものがあります。とても重い話です。

今年の15日は、茨城県護国神社の終戦記念祭に遺族団体などと共に参列しました。まごころを込めて戦没者の御霊に感謝と哀悼の意を捧げました。

